

日本板硝子株式会社

〒108-6321

東京都港区三田三丁目5番27号（住友不動産三田ツインビル西館）

TEL: 03-5443-9500

お問い合わせ: <http://www.nsg.co.jp/contact/>

URL: <http://www.nsg.co.jp>



株主の皆様へ

日本板硝子株式会社

第146期 中間報告書

2011年4月1日～2011年9月30日

「ガラス技術で世界に変革を」



目次

- 01 連結業績ハイライト
- 02 ごあいさつ
- 03 社長インタビュー
- 06 部門別業績サマリー
- 07 部門別概況
- 09 連結財務諸表
- 11 役員
- 12 株式情報
- 13 株主メモ
- 14 会社概要

連結業績ハイライト

	第 145 期 (2011 年 3 月期)	第 145 期 (中間期)	第 146 期 (中間期)
売上高 (百万円)	577,069	293,710	288,543
営業利益 (百万円)	22,867	16,654	9,192
税引前利益 (百万円)	15,306	11,795	6,381
中間期 (当期) 利益 (百万円)	15,815	8,058	6,306
1 株当たり中間期 (当期) 利益 (円)	15.65	7.21	6.35

ごあいさつ



平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。第 146 期中間報告書をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当期上半期における当社グループの業績は、ほぼ当初の想定どおりとなりました。2011 年 3 月に発生した東日本大震災の当社業績に対する影響は、当初予想よりも小さいことが判明しました。

建築用ガラス事業においては、市況に軟化の兆しが見られたものの、付加価値製品による貢献度合いが改善し、営業利益は堅調でした。自動車用ガラス事業においては、主に、2011 年 3 月の東日本大震災の影響により、利益は減少しました。震災後、需要は減少しましたが、現在は回復しています。機能性ガラス事業の売上高と営業利益は、ほとんどの市場の好調に伴い、堅調でした。

当社グループは、主要市場の多くでますます厳しくなる市況を反映するべく、通期の業績予想を修正いたしました。当社グループ経営陣は、コストを削減し、必要に応じて販売価格の値上げを行うことにより、これらのプレッシャーに対処してまいります。

2010 年 11 月に公表しました戦略的経営計画 (SMP) がスタートして 6 ヶ月が経ちました。本報告対象期間においても、多くの関連発表がなされ、プロジェクトが開始されるなど、SMP をサポートするさまざまな投資活動が進行中です。

SMP を完遂するべく、株主の皆様には、引き続き当社グループへのご理解とご支援をお願い申し上げます。

2011 年 12 月 1 日

日本板硝子株式会社
代表執行役社長兼 CEO
クレイグ・ネイラー

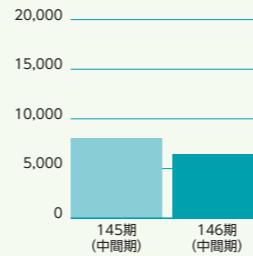
売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



中間期利益 (百万円)



(注) 当期及び前期に係る業績数値は全て、IFRS (国際会計基準) により表示しております。

社長インタビュー

Q1. 2012年3月期上半期の業績、及び世界経済情勢を背景とした今後の見通しをお聞かせください。

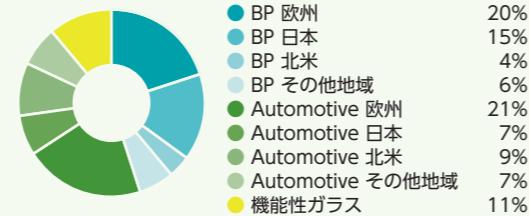
連結売上高は、前年同期と比べやや減少し、2,885億43百万円、同営業利益も減少し、91億92百万円となりました。これは、当初の見通しと一致するものです。東日本大震災の影響は、主に日本国内において、想定よりも小さいものとなりました。当期第2四半期における市況は、現在の世界経済状況を受けて、いくつかの分野で弱含みとなったものの、ほぼ我々の想定どおりに推移しました。中間配当は維持され、これは当社取締役会の自信を裏付けとするものです。

建築用ガラス事業の売上高は、1,284億40百万円、同営業利益は、80億83百万円となりました。建築用ガラス市場は、いくつかの地域で軟化の兆しが見受けられたものの、堅調でした。自動車用ガラス事業の売上高は、1,281億81百万円、同営業利益は、37億25百万円となりました。東日本大震災の影響は、多くの顧客の生産回復が当初の見込みよりも早かったため、想定していたよりも小さいものでした。機能性ガラス事業の売上高は、前年同期よりも減少したものの、営業利益は回復しました。この結果、同事業の売上高は、312億53百万円、また同営業利益は38億55百万円となりました。引き続き、タッチパネル向けに当社の超薄板(UFF)ガラスが用いられるスマートフォンや携帯情報端末向けの液晶パネル分野において、需要の成長が見込まれます。

我々の主要市場の多くで、市況はますます厳しくなっています。中国における過剰な生産能力により東南アジア地域及び同地域以遠での販売価格が落ち込み、他の市場の回復ペースは鈍化し、消費者マインドは冷え込んでいます。とりわけエネルギーを中心とする投入コストの増加は、引き続き当社グループの業績に影響を与えるでしょう。

当社グループのビジネスの長期的な展望としては、高成長を続ける新興国市場への地理的展開、付加価値製品の占める割合の増加という2つの成長ドライバーにより、依然としてポジティブなものといえます。

部門別連結売上高構成比



2,885 億円

地域別連結売上高構成比



2,885 億円

Q2. 2010年11月に戦略的経営計画(SMP)が発表されました。進捗をお聞かせください。

SMPは、当社グループを次なる発展段階へと導くものです。2012年3月期から2014年3月期までを対象期間とし、利益成長の達成及び「ビジョン」の実現という我々の目的を支えます。2010年11月の発表以来、新しい付加価値製品についてのキーとなる投資や発売について、進捗しています。

自動車用ガラス事業においては、初めて市場に Pilkington Sundym™ Select を投入しました。同製品は、調光ガラスであり、光や熱の車内への侵入度合いを搭乗者が決められるという点で、究極の「カスタマイズ」ガラスといえるでしょう。新型メルセデスベンツ SLK に搭載されています。

全ての大型投資案件の着手について、大きく進捗しています。ブラジルのカサパバへの展開では、第1フェーズの操業は順調です。第2フェーズについては、2012年の初頭に稼働する予定です。両ラインは、当社グループのグローバルネットワークで現在使用されている最新技術を備えます。9月には、ポーランドのフミエルフの新工場立ち上げを記念するセレモニーに参加しました。当地域での生産能力及び販売能力を拡大していきます。

建築用ガラス事業では、ブラジルのジョイントベンチャーによる次のフロートラインが2012年3月にスタートし、さらには同地域で6番目となるフロートラインが2014年1月に稼働することになっています。2011年1月には、ベトナムのVGI社のフロートラインを再稼働することを発表しました。同フロートラインは、ソーラーエネルギー市場に特化されます。英国では、より幅広い省エネ製品のラインナップをそろえるべく、オフラインのコーティング設備を設置する計画を発表しました。

機能性ガラス事業では、当社グループは、小型液晶ディスプレイ用の超薄板(UFF)ガラスの世界的なリーディングサプライヤーです。携帯機器等で使用されるタッチパネル基板製品向けにUFFガラスの生産能力を拡大する予定です。



(写真上)
フミエルフにおける新たな自動車用ガラス製造拠点の建設着工にあたって礎石除幕式を行う CEO のクレイグ・ネイラーとポーランドカンントリーマネージャーの Ryszard Jania



(写真左)
Pilkington Sundym™ Select は、スイッチ1つで不透明ガラスから透視ガラスへ変化します。

Q3. サステナビリティの原則の採用や職場安全の改善について、どのような進展が見られましたか？

あらゆる意味で持続可能な企業発展が大切であると考えます。SMP では、我々自身の省エネや廃棄物管理と、省エネにおける我々の製品の役割について、サステナビリティを強調しています。取締役会は 2015 年までに達成されるべき当社グループのサステナビリティターゲットを明確に定めました。

「ガラス技術を通じて世界に変革を」という我々のビジョンは、当社グループの製品が省エネ・創エネにおいて果たすことができる役割を映したものです。当社グループ初のサステナビリティディレクターとしてニック・ショーを選任し、さらにサステナビリティガバナンスを強化してきました。我々の目標は、さらに、全てのグループポリシーに、組織全体を通じて、サステナビリティを根付かせることです。ビジネスとしては、現在の環境指向のトレンドに貢献するとともに、それをうまく活かし、確実に利益につなげていきます。

安全については、この 10 年間で大きな改善があったことに疑いありません。災害発生度数率については一桁減らすほどに改善されました。しかし、安全を本当の意味で当社グループのコアバリューとするためには、依然として道半ばにあるといえます。私は、当社に来てからすぐに、執行役に対して安全戦略を見直すように指示を出しました。NSG グループにおける安全を次のレベルに引き上げることが私の目標です。

安全におけるリーダーシップに重点を置くことは極めて大切であると信じています。現在の取り組みの中心は、「安全リーダーシップ 10 の重要安全行動」の効果的な実施です。最近では、全てのレベルのマネジメント層を対象に、これらの事項を強化するべく、ビデオメッセージを作成しました。この 1 年では、ベストプラクティスの推奨に向け、「グループ安全・環境アワード」を発足させました。また、年に一度、「NSG グループ安全の日」を設定することとし、第 1 回目として早速、今年の 11 月末に実施しました。社員の安全に対する意識をさらに高めていきます。



NSG グループ安全アワード 2011
NSG グループ安全アワード 2011 は、英国の BP 製造改善チームとコーリーヒル工場に贈られました。彼らのプロジェクトで特筆されるのは、ガラスを持ち上げる際に使用するグラブのセンサーシステムです。これにより、作業者は、ガラスを持ち上げる前に、グラブが正しい位置にあることをはっきりと確認することができ、ガラスの破損につながる誤配置を防ぐことができます。



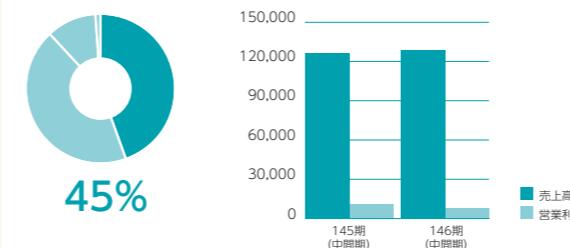
NSG グループ環境アワード 2011
第 1 回 NSG グループ環境アワードは、インドのバイザック工場における節水プロジェクトに贈られました。本プロジェクトにより、特定の水消費が 10% 以上、一般の水使用量が 34%、そしてコストが 20%、それぞれ削減されました。

部門別業績サマリー



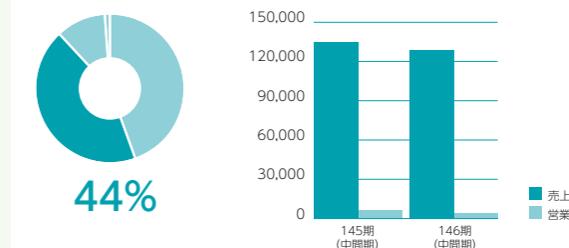
建築用ガラス事業

連結売上高及び営業利益
(単位：百万円)



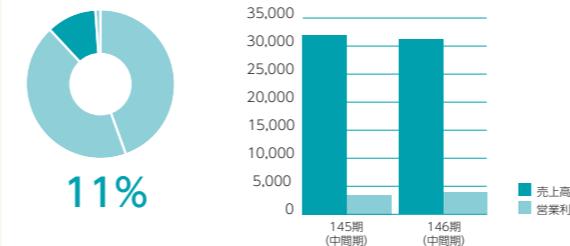
自動車用ガラス事業

連結売上高及び営業利益
(単位：百万円)



機能性ガラス事業

連結売上高及び営業利益
(単位：百万円)



その他

連結売上高及び営業利益 (損失)
(単位：百万円)



部門別概況

建築用ガラス事業



建築用ガラス事業の業績は、2010年2月のチリ地震による保険金受領分約33億円を含んだ前年同期から、営業利益が減少しました。エネルギー関連をはじめとする投入コストの増加は、ほとんどの地域における販売価格水準の改善によりカバーされました。ソーラーエネルギー関連製品の販売数量は依然として増加しているものの、前年同期と比べると、その増加率は低くなっています。

欧州では、売上高は前年同期並みとなりました。営業利益は、主にコスト削減により増加しました。販売価格は、当第2四半期を通じて安定して前年同期並みで推移し、引き続き投入コストの増加を抑えています。

日本における売上高は、前年同期からわずかに増加し、ダウンストリーム（川下）事業の売上高と販売数量は、前年同期から増加しました。営業利益は、より高付加価値製品へとプロダクトミックスを改善し、大きく増加しました。

北米では、現地通貨ベースでの売上高及び営業利益は、付加価値製品の占める割合を大きくしたことにより、前年同期を上回りました。

その他の地域では、米ドルベースで売上高が改善したものの、営業利益については、チリ地震の保険金収益の影響を除いたとしても、減少しました。南米の業績は堅調で、販売数量に若干の伸びが見られます。しかし、中国における過剰生産能力が価格設定環境の悪化を招いており、東南アジア及び中国における売上高及び営業利益は減少しました。

この結果、当事業の業績は、売上高は1,284億40百万円、営業利益は80億83百万円となりました。

自動車用ガラス事業



自動車用ガラス事業では、主として、東日本大震災の影響により、売上高、営業利益ともに前年同期を下回りました。多くの顧客の生産水準の回復が当初の見込みよりも早かったため、経済的なインパクトは想定より小さいものとなりました。

欧州では、新車向け（OE）部門において需要が改善し、売上高は前年同期を上回りました。しかし、営業利益は、投入コストの増加、新規設備立ち上げコスト、及び不安定な需要により、減少しました。補修用（AGR）部門の業績は、販売数量が減少したものの、その影響がプロダクトミックスの改善により打ち消されたため、堅調でした。

日本では、東日本大震災の後、第1四半期を通じて顧客が生産水準を引き下げたため、売上高は前年同期を下回りました。第2四半期には需要が回復しましたが、依然として前年同期の水準を下回っています。

北米では、新車向け（OE）部門の売上高及び営業利益は、前年同期を下回りました。需要は、震災の影響を受けましたが、現在は回復しつつあります。営業利益は、投入コストの増加の影響も受けました。補修用（AGR）部門の営業利益は、プロダクトミックスの好調とオペレーションパフォーマンスの向上により、改善しました。

その他の地域では、南米における販売数量のさらなる伸びにより売上高が増加したものの、第2四半期はやや低調でした。営業利益は、販売数量の伸びがコストの増加、不安定な需要、及び新規設備の立ち上げコストにより一部打ち消される形になり、前年同期並みでした。

この結果、当事業の業績は、売上高は1,281億81百万円、営業利益は37億25百万円となりました。

機能性ガラス事業



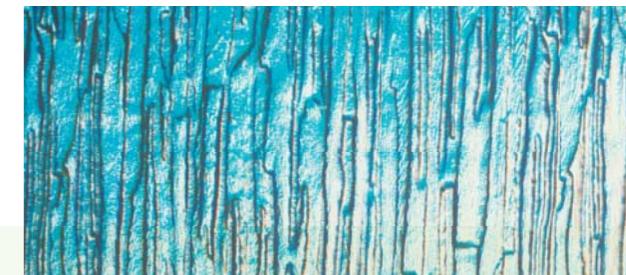
機能性ガラス事業の売上高は、前年同期を下回りましたが、営業利益は改善しました。当事業では、スマートフォンや携帯情報端末向け液晶パネルの分野においてタッチパネルの製造に使用される当社グループの超薄板（UFF）ガラスに対する需要が改善しました。

多機能プリンターに使用される当社のセルフロック®レンズアレイ（SLA）の販売数量は、主として東日本大震災により、顧客において部品不足が生じ、需要減少の影響を受けました。

多機能プリンター製品等の輸出は、引き続き円高の影響を受けました。エンジン・タイミングベルト用ゴムコードの売上高は、堅調な需要により、前年同期から改善しました。

この結果、当事業の業績は、売上高312億53百万円、営業利益は38億55百万円となりました。

その他



当分野には、全社費用、連結調整、前述の各事業に含まれない小規模な事業、及びピルキントン社買収に伴い認識された無形資産の償却費が含まれます。「その他」における営業損失は、一時的な収益を含んだ前年同期と比べ、増加しました。

この結果、「その他」の売上高は6億69百万円、営業損失は64億71百万円となりました。

連結財務諸表

連結貸借対照表

	(単位:百万円)	
	当第2四半期(中間期) 連結会計期間末 (2011年9月30日現在)	前連結会計年度末 (2011年3月31日現在)
資産		
非流動資産		
のれん	96,604	114,432
無形資産	86,316	102,026
有形固定資産	245,874	272,177
投資不動産	777	911
持分法で会計処理される投資	47,667	49,420
売上債権及びその他の債権	10,695	12,290
売却可能金融資産	8,645	9,167
デリバティブ金融資産	634	2,111
繰延税金資産	52,187	50,155
	549,399	612,689
流動資産		
棚卸資産	99,909	100,345
未成工事支出金	999	632
売上債権及びその他の債権	107,186	110,689
売却可能金融資産	3	231
デリバティブ金融資産	3,123	3,034
現金及び現金同等物	40,672	60,906
	251,892	275,837
売却目的で保有する資産	862	894
	252,754	276,731
資産合計	802,153	889,420

一株当たり情報に関する注記
一株当たり中間期利益 6円35銭

	(単位:百万円)	
	当第2四半期(中間期) 連結会計期間末 (2011年9月30日現在)	前連結会計年度末 (2011年3月31日現在)
負債及び資本		
流動負債		
社債及び借入金	36,600	56,375
デリバティブ金融負債	2,829	2,205
仕入債務及びその他の債務	101,506	122,871
引当金	10,457	20,692
繰延収益	2,391	2,615
	153,783	204,758
非流動負債		
社債及び借入金	335,403	318,678
デリバティブ金融負債	1,918	1,925
仕入債務及びその他の債務	1,173	3,588
繰延税金負債	38,589	44,918
退職給付引当金	81,558	70,899
引当金	16,932	12,893
繰延収益	4,250	5,184
	479,823	458,085
負債合計	633,606	662,843
資本		
親会社の所有者に帰属する持分		
資本金	116,449	116,449
資本剰余金	127,511	127,510
利益剰余金	49,571	63,475
利益剰余金(IFRS移行時の累積換算差額)	△ 68,048	△ 68,048
その他の資本の構成要素	△ 66,189	△ 23,154
親会社の所有者に帰属する持分合計	159,294	216,232
非支配持分	9,253	10,345
資本合計	168,547	226,577
負債及び資本合計	802,153	889,420

連結損益計算書

	(単位:百万円)	
	当第2四半期(中間期) 連結累計期間 (2011年4月1日から 2011年9月30日まで)	前第2四半期(中間期) 連結累計期間 (2010年4月1日から 2010年9月30日まで)
売上高	288,543	293,710
売上原価	△ 212,814	△ 213,987
売上総利益	75,729	79,723
その他の収益	2,686	11,711
販売費	△ 26,198	△ 26,579
管理費	△ 34,990	△ 38,172
その他の費用	△ 8,035	△ 10,029
営業利益	9,192	16,654
金融収益	1,141	985
金融費用	△ 8,207	△ 10,019
持分法による投資利益	4,255	4,175
税引前四半期利益	6,381	11,795
法人所得税	△ 75	△ 3,737
四半期利益	6,306	8,058
非支配持分に帰属する四半期利益	579	3,101
親会社の所有者に帰属する四半期利益	5,727	4,957
	6,306	8,058

連結包括利益計算書

	(単位:百万円)	
	当第2四半期(中間期) 連結累計期間 (2011年4月1日から 2011年9月30日まで)	前第2四半期(中間期) 連結累計期間 (2010年4月1日から 2010年9月30日まで)
四半期利益	6,306	8,058
その他の包括利益:		
在外営業活動体の換算差額	△ 41,976	△ 31,492
退職給付引当金の数理差異調整(法人所得税控除後)	△ 16,924	—
売却可能金融資産の公正価値の純変動(法人所得税控除後)	43	△ 153
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動(法人所得税控除後)	△ 2,317	216
その他の包括利益合計(法人所得税控除後)	△ 61,174	△ 31,429
四半期包括利益合計	△ 54,868	△ 23,371
非支配持分に帰属する四半期包括利益	△ 638	2,441
親会社の所有者に帰属する四半期包括利益	△ 54,230	△ 25,812
	△ 54,868	△ 23,371

連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位:百万円)	
	当第2四半期(中間期) 連結累計期間 (2011年4月1日から 2011年9月30日まで)	前第2四半期(中間期) 連結累計期間 (2010年4月1日から 2010年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 11,935	9,996
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 19,381	△ 6,539
財務活動によるキャッシュ・フロー	18,636	△ 5,152
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 3,069	△ 2,785
現金及び現金同等物の増減額	△ 15,749	△ 4,480
現金及び現金同等物の期首残高	46,491	55,995
現金及び現金同等物の四半期末残高	30,742	51,515

役員 (2011年9月30日現在)

当社は2008年6月27日付で委員会設置会社に移行しました。

取締役

取締役会長 兼取締役会長	藤本 勝 司
取締役副会長	阿部 友 昭
取締役	クレイグ・ネイラー
取締役	マーク・ライオンズ
取締役	マイク・ファーロン
取締役	吉川 恵 治
取締役	クレメン ス・ミラー
社外取締役	ジョージ・オルコット
社外取締役	藤田 純 孝
社外取締役	朝 香 聖 一
社外取締役	小 宮 弘

執行役員

代表執行役社長 兼CEO	クレイグ・ネイラー
執行役CFO	マーク・ライオンズ
執行役員	マイク・ファーロン
執行役員	吉川 恵 治
執行役員	クレメン ス・ミラー

執行役員

上席執行役員	日 吉 孝 一
上席執行役員	今 西 実
上席執行役員	ポール・マキオン
上席執行役員	カルロス・エンリケ・メデイロス
上席執行役員	フィル・ミリチャップ
上席執行役員	諸 岡 賢 一
上席執行役員	中 澤 俊 幸
上席執行役員	ト ム ・ レ イ
上席執行役員	ルイス・エンリケ・ソウザ
上席執行役員	ミレナ・スタニッチ
上席執行役員	轟 木 直 孝
上席執行役員	フィル・ウィルキンソン
執行役員	藤 井 一 光
執行役員	藤 巻 和 彦
執行役員	梯 慶 太
執行役員	前 田 浩 一
執行役員	前 原 耕 二
執行役員	ポール・レーベンスクロフト
執行役員	ト ニ ー ・ シ ョ ウ
執行役員	イ ア ン ・ ス ミ ス

指名委員会

藤本 勝 司 (委員長)
阿部 友 昭
ジョージ・オルコット
藤田 純 孝
朝 香 聖 一
小 宮 弘
クレイグ・ネイラー

監査委員会

阿部 友 昭 (委員長)
藤本 勝 司
ジョージ・オルコット
藤田 純 孝
朝 香 聖 一
小 宮 弘

報酬委員会

ジョージ・オルコット (委員長)
阿部 友 昭
藤田 純 孝
朝 香 聖 一
クレイグ・ネイラー

株式情報 (2011年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	1,775,000,000 株
発行済株式の総数	903,550,999 株
株主数	66,899 名

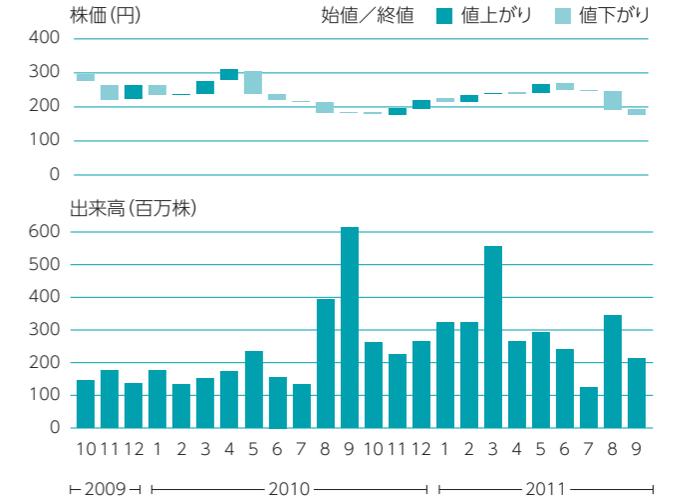
大株主

株主名	所有株数 (株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	63,636,000	7.04
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	56,591,000	6.26
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口 9)	39,935,000	4.42
野村信託銀行株式会社 (投信口)	15,907,000	1.76
The Chase Manhattan Bank, N.A. London Secs Lending Omnibus Account	15,444,424	1.71
JPMBSA Offshore Lending JASDEC Account	14,228,000	1.57
資産管理サービス信託銀行株式会社 (年金信託口)	13,982,000	1.55
State Street Bank and Trust Company 505225	12,021,161	1.33
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	11,716,000	1.30
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口 4)	10,437,000	1.16

所有者別の持株比率



株価と出来高の推移



(注) 株価、出来高ともに東京証券取引所のもので表示しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 剰余金の配当 9月30日・3月31日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	住友信託銀行株式会社 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
株主名簿管理人事務取扱場所	住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都中央区八重洲二丁目3番1号
公告の方法	下記ホームページに掲載する。 http://www.nsg.co.jp
会計監査人	新日本有限責任監査法人

ご住所変更などのお届出及びご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。

証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様につきましては、右記の電話ご照会先までお問い合わせください。

単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式（最低取引単位に満たない1～999株の株式）をご所有の場合、その単元未満株式につき、当社に対して

- (1) 買取請求又は
- (2) 買増請求（ご所有の単元未満株式と併せて1単元（1,000株）に達するまでの株式を買い増すこと）をすることができます。

お手続きの詳細は一般口座ご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社までお問い合わせください。特別口座の株主様（証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様）につきましては、右記の電話ご照会先までお問い合わせください。

会社概要（2011年9月30日現在）

商号	日本板硝子株式会社
本店	〒108-6321 東京都港区三田三丁目5番27号 （住友不動産三田ツインビル西館） TEL: 03-5443-9500
設立	1918年11月22日
従業員数（連結）	29,957人
資本金	116,449百万円
上場証券取引所	東京、大阪（証券コード：5202）

上場株式配当等の支払いに関する通知書について

租税特別措置法の2008年改正（平成20年4月30日法律第23号）により、2009年1月以降に当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主様宛にお送りしております（同封の「配当金計算書」が「支払通知書」を兼ねることになります）。

なお、「支払通知書」は、株主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます。

第146期中間配当金のお支払いについて

第146期中間配当金は、同封の「第146期中間配当金領収証」によりお支払いいたしますので、お近くのゆうちょ銀行全国支店及び出張所並びに郵便局（銀行代理業者）で払渡期間内（2011年12月2日から2012年1月31日まで）にお受け取りください。

なお、振込先をご指定の方には「第146期中間配当金計算書」及び「配当金のお振込先について」を同封いたしますので、ご確認くださいませようお願い申し上げます（株式数比例配分方式を選択された場合の配当金のお振込先につきましては、お取引の口座管理機関（証券会社）へお問い合わせください）。

郵便物ご送付先 住友信託銀行株式会社
証券代行部
〒183-8701
東京都府中市日鋼町1番10

電話ご照会先 ☎ 0120-176-417